

二〇二二年九月一〇日

霧襖分けて始発の電車の灯
秋暑し赤子あやして百面相
秋日濃し日に一本のバスを待ち
鉦叩き灯して暗き外厠
秋風鈴よろず屋の婆うたた寝す

智恵子

なつき

菜々

たか子

なつき

二〇二二年九月九日

うそ寒しためらひて書く無職の字
道道のつゆ草サファイアめく朝日
片づきし亡夫の書棚に秋日影
どんぐりに足な取られそ山下る
蟪蛄の睨む目ん玉枯れ兆す
軽トラの荷台で味見笹の桃
甘藷畑横 一列に軍手の子
単線の鉄路左右よりねこじゃらし

凡士

こすもす

むべ

あひる

凡士

豊実

みきお

やよい

二〇二二年九月八日

秋晴や島の波止占む一夜干し
蹲るに水漬くひと葉や今朝の秋
つくつくし古墳の森に合唱す

凡士

菜々

せいじ

二〇二二年九月七日

総玻璃のビルの青さや秋の雲
合鴨の声そこここに稲の花

ぼんこ

やよい

爽やかやびたりと決まる組体操

宏 虎

花束にあらず真つ赤な唐辛子

もとこ

庭下駄の一つ転がる白露かな

なつき

二〇二二年九月六日

つと立ちて次の風待つ猫じゃらし
新米来何はともあれ塩結び
塩むすび艶よし香よし今年米
稲の香を撒き散らすゆくコンバイン

明日香

やよい

やよい

素 秀

二〇二二年九月五日

ひぐらしの四方に飴す川の宿
一部屋を占めて干さるる唐辛子
秋天を足蹴りにして逆上がり

もとこ

素 秀

みきお

二〇二二年九月四日

雲海を貫く富士の勇姿見よ
初盆や遺影の前にランドセル
土間照らす裸電球ちちろ鳴く

智恵子

みきお

みきお

毎日句会みのもる選・二〇二二年九月一二日